

膵臓がん、尿で早期発見

名大発新興、難治疾患の克服急ぐ

膵臓(すいぞう)がんは初期段階に発見する技術の開発が広がっている。名古屋大学発スタートアップは尿からがんを発見する検査技術の開発を進める。国立がん研究センターは画像診断で微小ながんを発見できる薬剤を作った。膵臓がんは発見後の5年後生存率が他のがんより低い。手術で取り除きやすくなるように、早期発見できる仕組みづくりが進む。

膵臓がんは初期段階で亡くなる人は約4万人。発を進めている。マイクロRNA(リボ核酸)という物質に注目した。尿や唾液、血液などに含まれる物質で、がんの増殖に関わっている。クライフはマイクロRNAを人工知能(AI)で解析してがんを検知する。

判定精度9割

名大発スタートアップのクライフは、東京・文京区に本社を置く。尿から膵臓がんを発見する技術を開発している。

「膵臓がんは1センチ以下の検査製品は病院で糖尿病などリスクが高い患者への使用を想定する。病院で診断補助として使っている。当局から医療機器として承認を得る必要がある。承認取得に向けたデータ収集のため、4月から臨床試験を始めた。」

「暗黒の臓器」画像で検査も

膵臓がんは初期段階で亡くなる人は約4万人。発を進めている。マイクロRNA(リボ核酸)という物質に注目した。尿や唾液、血液などに含まれる物質で、がんの増殖に関わっている。クライフはマイクロRNAを人工知能(AI)で解析してがんを検知する。

膵臓がんは1センチ以下の検査製品は病院で糖尿病などリスクが高い患者への使用を想定する。病院で診断補助として使っている。当局から医療機器として承認を得る必要がある。承認取得に向けたデータ収集のため、4月から臨床試験を始めた。

「膵臓がんは1センチ以下の検査製品は病院で糖尿病などリスクが高い患者への使用を想定する。病院で診断補助として使っている。当局から医療機器として承認を得る必要がある。承認取得に向けたデータ収集のため、4月から臨床試験を始めた。」

膵臓がんは1センチ以下の検査製品は病院で糖尿病などリスクが高い患者への使用を想定する。病院で診断補助として使っている。当局から医療機器として承認を得る必要がある。承認取得に向けたデータ収集のため、4月から臨床試験を始めた。

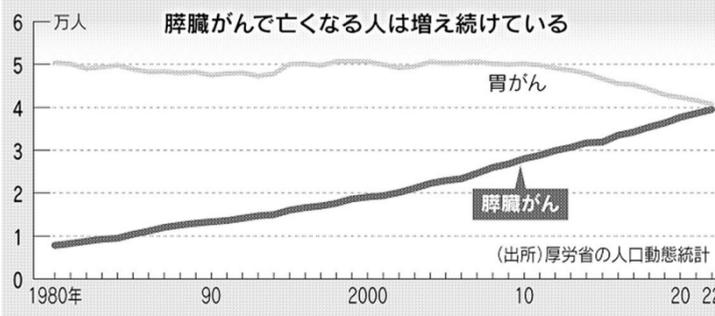
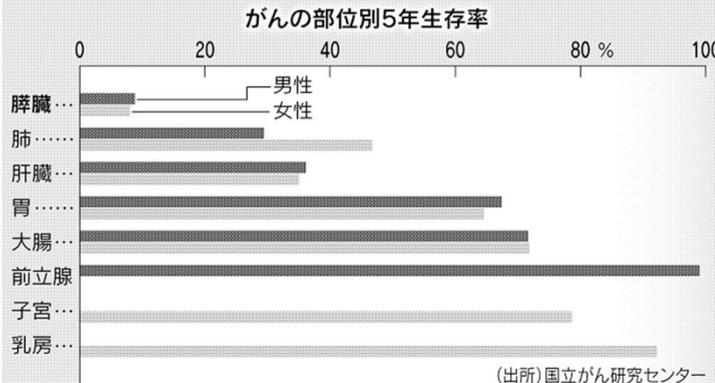
膵臓がんは1センチ以下の検査製品は病院で糖尿病などリスクが高い患者への使用を想定する。病院で診断補助として使っている。当局から医療機器として承認を得る必要がある。承認取得に向けたデータ収集のため、4月から臨床試験を始めた。

膵臓がんは1センチ以下の検査製品は病院で糖尿病などリスクが高い患者への使用を想定する。病院で診断補助として使っている。当局から医療機器として承認を得る必要がある。承認取得に向けたデータ収集のため、4月から臨床試験を始めた。

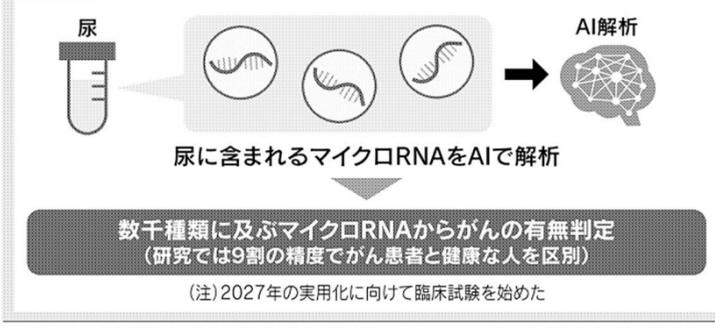
がんの中で発見困難で生存率低い



- ◆初期は症状が出にくく、早期発見が難しい
- ◆臓器が小さく、画像診断で発見しにくい
- ◆糖尿病や肥満、喫煙・飲酒の習慣で罹患(りかん)のリスクが高まる



尿をAI解析してがん判定



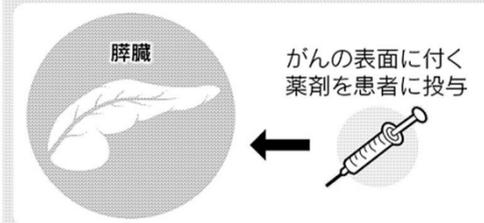
膵臓がんは1センチ以下の検査製品は病院で糖尿病などリスクが高い患者への使用を想定する。病院で診断補助として使っている。当局から医療機器として承認を得る必要がある。承認取得に向けたデータ収集のため、4月から臨床試験を始めた。

がんに反応する検査薬剤も



国立がん研究センター、リンクメッド(千葉市)

画像診断検査できる薬剤を開発



1センチメートル未満の小さな腫瘍見つける

グラフィックス 榎垣雅希

膵臓がんは1センチ以下の検査製品は病院で糖尿病などリスクが高い患者への使用を想定する。病院で診断補助として使っている。当局から医療機器として承認を得る必要がある。承認取得に向けたデータ収集のため、4月から臨床試験を始めた。